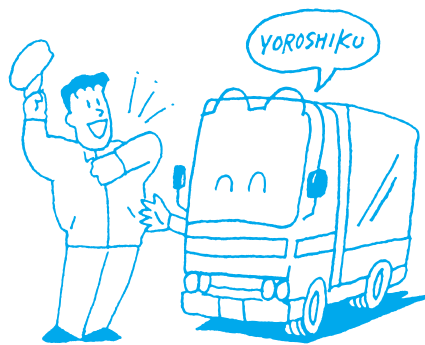


## 事故事例に学ぶ

21

### 交差点事故



## 大型車が左折時に横断歩行者を巻き込む

### 事故の概要

#### 発生状況

日 時：平成15年6月某日午後2時20分頃

天 候：曇り

発生場所：神奈川県川崎市内の交差点

#### 道路状況

片側1車線の市道と片側2車線の県道が交わる信号機のある交差点

#### 事故の当事者

運転者A(5トントラック)：52才、男性

被害者B(歩行者)：68才、女性

#### 被害状況

A：損害なし

B：右下肢骨折、下半身打撲等全治10か月

の歩道上で立ち話をしながら信号待ちをしている4、5人の高齢の女性を認めた。

信号が青に変わり、立ち話をしていた人達が横断歩道を渡り終えたのを確認し、他に横断する歩行者はいないものと思い、対向車線から交差点を右折しようとしていた車両の動向に注意し、左方の安全を確認しないまま左折を開始したところ、横断歩道上で左後輪が「何かに乗り上げた」のを感じた。

Aは直ちに車両を停止させ、降車してみると女性の一人Bを左後輪で轢過し、重傷を負わせてしまっていた。

#### 事故の原因

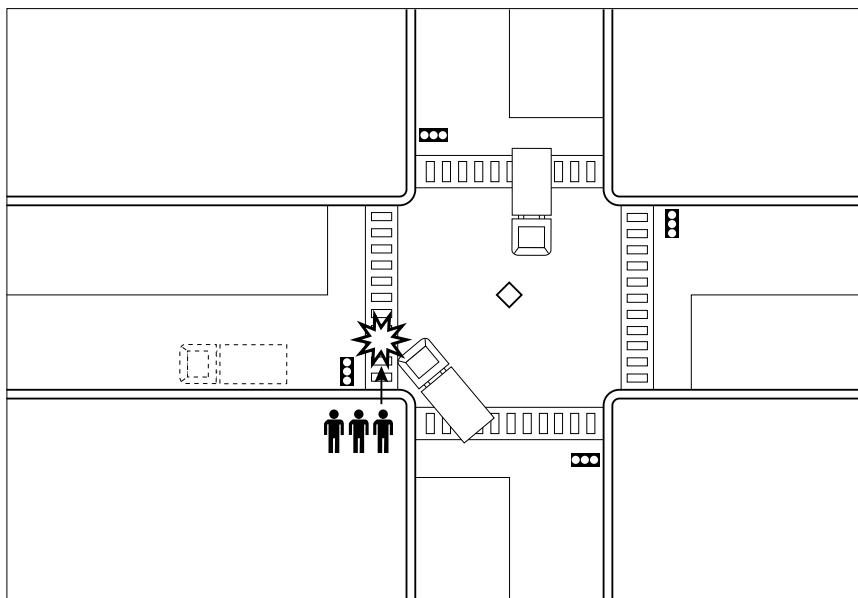
事故の直接の原因は、Aが左折をする際、左方の安全確認を怠ったことであるが、横断歩道

## 事故状況

Aは、大型トラックの運転歴が24年のベテランドライバーである。これまでの事故歴は物損事故1件だけで、その後16年間無事故無違反の模範運転者であった。

事故当日は自動車部品の搬送のため、出発地点から約800メートル走行し、事故現場となった交差点を左折して目的地に向かう途中であった。

Aは、交差点に差し掛かった際、赤信号であったため、交差点手前で一旦停止したが、その時、左側



を渡っている何人かの人を認めたとき、先に見た歩道上で立ち話をしていた人全員が渡りきり、ほかには誰もいないと「思い込んだ」ためであり、多少遅れて横断してきた一人を全く確認していなかったものである。

一方、Bも左折の合図を出して動き出したAのトラックを認めたが、自分が横断歩道を渡っていることをAも当然見ているものと「思い込み」、早く前に行く人に追いつこうとして横断したものと推定される。

この事故は、双方の「思い込み」による油断から発生した事故であり、交差点事故としてよくあるケースである。

#### 交差点事故の実態

平成14年度当組合の交差点事故発生状況(人身)

総件数	交差点	発生率
788件	407件	51.6%

平成14年度を原因別で見ると「前方不注視」が全体の65.8%を占めている。

過去5年間の死者数を見ると「交差点」における死者が38人で全体の40.9%を占めている。

#### 事故防止の安全指導

##### ①いつもの交差点に注意

交通事故の大半は、運転開始から30分以内に発生しており、通り慣れた道路であることが一つの発生要因となっています。

Aも、この事故の発生地点は勤め先からすぐ近くであり、常に通り慣れた「いつもの交差点」でした。しかし、どんなに道路を熟知していても交通状況は常に変化しているものです。

通り慣れた「いつもの交差点」だからこそ、警戒心が薄れ、油断が生じやすいことを自覚し、最も基本である安全確認を確実に実践することを習慣付けましょう。

##### ②交差点は危険の巣

大型トラックの場合、事故の約70パーセントは信号機のある交差点で発生しています。

交差点通過時の安全確認は通常1秒間といわれ、しかも瞬時に確認できるものは、せいぜい5、6つの事象に限られることから、交

差点における右左折時の安全確認など、肝心な事象を見逃さないように心掛けることが大切です。

##### ③内輪差による左折巻き込み

大型トラックによる歩行者事故の致死率は乗用車の5倍以上も高いのが実態であります。特に、交差点を左折する時、歩行者や自転車、二輪車を巻き込んでしまう事故が多く発生しており、この左折時の「巻き込み事故」は「内輪差」が一つの要因となっていると考えられます。

左折をする時は、ハンドルを切る前に何度も左側方や後方の安全を確認し、また、ミラーには死角があり、歩行者や接近している二輪車等が見えないこともあるので、自分の目でも確認するようにしましょう。

##### ④高齢者(65歳以上)の死者数

平成14年度当組合の交差点事故発生状況(人身)

総死者数	高齢者	高齢者の率
18人	5人	27.8%

過去5年間の死者数を見ると「高齢者」は23人で全体の24.0%を占めている。

##### ⑤高齢者の行動特性を理解

人は加齢により運動能力や判断能力が低下するため、高齢者はしばしば危険な行動をとることがあります。

高齢者が危険な行動をとっても、的確、安全に対処できるよう高齢者の行動特性を理解しておくことが事故防止上、必要なことといえます。高齢者の行動特性として、

- ・体の動きが鈍く咄嗟に危険を回避できない。
- ・交通ルールに疎い
- ・判断力が低下している
- ・自己中心的である
- ・ドライバーからの保護を期待する

等があげられますが、特に歩行者の場合、「車の方で気付いて止まるだろう」と弱者優先の意識が強く、周囲の状況を見ないまま道路を横断し事故になるケースが多いので注意してください。